草津東　町内だより　（令和五年）2023/ 4/1　第475号

この人を訪ねて＃222

高齢者の皆さんが楽しく元気が出るように

広島市草津老人いこいの家　館長
宗山隆幸（むねやま たかゆき）さん68歳

サラリーマン歴40数年、縁あって「草津いこいの家」の館長になって3年目。同所は広島市から指定管理を受けたNPO法人ワーカーズコープの運営のもと、地域の60才以上の高齢者を対象に、「いこい」・「慰安」・「活動」などの場を提供。実質宗山さん一人で切り盛りする。

『広島市草津老人いこいの家』は、広島市西区草津南一丁目16－8。広電草津南電停から南へ徒歩約八分、西部埋め立第8公園を通り、みゆき保育園の隣にある。

広島市が指定管理を運営委託

「広島市草津老人いこいの家（以下いこいの家）」はいまから45年前、西部開発事業の関連で1978年（昭和53年）に設置された。広島市と指定管理契約したNPO法人ワーカーズコープ（日本労働者協同組合連合会センター事業団、以下ワーカーズコープ）の広島公共事業所が管理運営をおこなっている。なお、同事業所は「草津老人いこいの家」のほかに、中区白島・「広島市中央老人福祉センター」、安佐南区西原・「広島市祇園福祉センター」と中区光南・「吉島いこいの家」合計4ケ所の管理運営をしている。

「草津老人いこいの家」の館長へ

1955年（昭和30年）1月、現北広島市豊平で生まれた宗山隆幸さんは、祇園小、安佐中学学校から県立広島商業高等学校をへて、広島経済大学経済学部を卒業（77年卒）し、現「生活協同組合ひろしま」に入協（就職）。関連企業や最後は消費者ネット広島を含め、65才までの43年間勤務した。知人の紹介でワーカーズコープ広島公共事業所が管理運営する『草津老人いこいの家』に21年6月より館長として勤務することになった。

「草津老人いこいの家」とは

「草津老人いこいの家」の設置目的は、『高齢者に対して、教養の向上、レクリエーション等のための場所を提供し、心身の健康の増進を図るために設置された施設（抄）』とリーフレットに記載されている。

① 利用資格者：広島市内在住の60才以上（原則無料）
② 利用施設：団体利用集会室＝大広間、和室2部屋、浴室、娯楽室、ロビー
③ 利用方法：・個人＝利用登録（要：身分証明書他・団体＝窓口にて一ヶ月前申請・利用資格ない方は有料、10日前申請
④ 開館時間：・午前9時から午後5時まで・浴室利用：毎週月・水・金午前10時から午後3時まで（受付は午後2時半まで）
⑤ 休館日：・毎週火曜日、祝祭日の翌日、年末年始」
⑥ 利用状況：・日常サークル活動＝カラオケ・民謡3組舞踊4組、随時サークル＝絵手紙、銭太鼓、着物着付けなど8組
⑦ 利用者数：22年度年間延べ総数約1万3600人（月当たり延べ1240人）・浴室利用平均一日当たり40～50人

「お風呂には自力で来られないといけない。男性が6割強で、独身の方が多いようにみえます」と。

館長…一人奮闘中

館長とはいえ、常勤者は宗山さん一人。宗山さんが休勤日には、非常勤パートの女性が代替し、浴室の掃除を含めシルバー人材センターに任せている。

勤務時間は8時から17時時まで。「今までの職場より長いのですが（笑）…。」出勤して風呂のある月・水・金曜日は見回りの後、9時に風呂のガスボイラーのスイッチを入れ、湧いたところで男女浴槽に湯を張る。一番気を遣うのは、先ごろ佐賀の老舗旅館であった、レジオネラ菌での被害だ。幸い一日終われば、湯は抜きかえるから心配はないのだが。浴槽内も含め、高齢者が利用する場所のため、転倒や持病がもとでのまさかの事故が起きた時の備えをいつも心掛けているという。

楽しんでもらうために催しものを企画

日中業務は、来場者の受付、パソコンが使用できる宗山さんは上部への報告書類、データーを難なく作成する。また、一人でも多くの人に来場してもらうためや、来場者に楽しんでもらうため、いろいろな催しものを企画する。「お月見コンサート」や「映画鑑賞会」、8/6の「平和学習会」また庚午包括支援」センターの協力をえて、「健康相談会」「認知症講座」や毎週月曜日の「百歳体操」ときには体力測定をおこなっている。ちなみに、今年1月には映画「老後の資金がありません」を上映、今月（4月）21日（金）の午後には「お帰り寅さん 男はつらいよ」（第五十回記念作品）を予定している。

時には利用者の方が講師になり、対個人的『終活相談会』をしてくれる。

宗山さんが着任した21年度はコロナ禍で、119日間休館した。昨年度は3月から通常通り開けている。

気さくに相談に応じる

気さくな宗山さんは、携帯スマホ、ガラ携帯の使い方を教えたり、ときには病気の話しを聞くうちに、要介護が必要と感じたときは、庚午包括支援センターを紹介する。独身の男性は夕食のことが心配で、帰りにスーパーに寄って何を買おうかと相談する人もいる。ここに来ないと話し相手がないといわれ、世間話も含め、色いろ話相手になっている。

「お好み焼き」のプロ？

「私はお好み焼きを何千枚も焼きました。プロに近い腕前ですね（笑）。前職場いたとき、阪神大震災、東日本大震災が起こりまして、生協ひろしまを上げて車を連ねて何回も救援にかけつけ、そこで被災者の人たちにお好み焼きを焼いてあげよろこばれましたね」。またソ連がロシアに替わったころ、広島市がボルゴグラード市と姉妹都市を結んでいたとき、オタフクソースの協力で生協はボ市にお好み焼き店を出店した。宗山さんは話す、「出店してすぐに撤収しました。現地の従業員が、材料など勝手に持ち帰るし、家族等を呼んで、タダで食べさせるのですから商売にはなりません（大笑）…。お国柄ですかね」。

宗山さんの職務経歴書とは

いま筆者の手元に宗山さんがワーカコープに就職面接のときに提出した「職務経歴書」の写しを、無理を言って見せてもらった。宗山さんは自ロピーアール（一部抜粋要約）を次の通り書いている。

【前職（生協ひろしま時代）では、内部監査、人事総務、物流業務の管理職を含め携わっていた。スキル（特技）は、高校、大学では簿記を学んでおり、仕事でも経理、総務に従事し、これら今までの業務経験生かし、対外折衝、コミュニケーション、リスク管理、計数処理力などをいかし、冷静さ、几帳面さをもって業務に貢献したいと考え応募しました。】と。

お話を聞いていると、前職での経験により、いまのお仕事に必要な企画力、事務処理能力はまさに職務経歴書通りで、宗山さんの人間性、人当たりの良さは他に類を見ない。『草津老人いこいの家』は本当に適格な人を選んだと思う。

いまも続く友情の輪

大学受験を目指して"塾"で知り合った、宗山さんを含む3人の他高校生同士の付き合いが、今でも続いている。進路は各々別れだが年に3回、湯木ロッジ等に集い、互いの友情を確かめあっていると話す。

若い時知り合った忌憚のない友は得難いものである。

雨の日が憎い…一日一万歩

趣味は「ないですねぇ、いまウォーキングに凝っています。5時に終わると、商工センター内に車を止めて、雨の日以外は一日一万歩を目標に歩いてます。おかげで夜の酒がうまいんですよ」。（編集 倉田和峰）

宗山隆幸
（むねやま たかゆき）

「広島市草津老人いこいの家」：広島市西区草津南一丁目16番8号 広島市佐伯区五日市中央在住 1955年1月生まれ、祇園小、安佐中学、県立広島商業高等学校、広島経済大学経営学部（77年卒）、現生協ひろしまに入協。関連を経て、消費者ネット広島、21年6月草津老人いこいの家館長
・家族：妻 長女、長男 孫3人

阪神大震災、東日本大震災へ生協ひろしま上げて支援物資やお好み焼きを提供した。円内宗山さん

物流事業担当時に岸田現首相に説明する宗也さん（右）

ビッグアーチにも足を延ばす、一日一万歩を目標に

老人いこいの家の門前にて宗山さん
聞取り：浴室、和室3、ロビー
2F 舞台付大広間

塾で知り合った3人組、50年間いまでも友情は変わらない

ロシアには数回渡航、軍用機を改造したエアロフロートの前

左：寅さん上映のチラシ

左：受付兼事務室にて　右：ボイラーの操作をする
限られた予算の中で燃料の高騰が痛い